

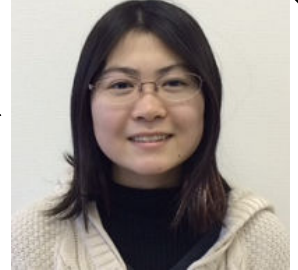
Topic 1

◇ 今春入試合格体験記 合格者 喜びの声

鄭 茉莉さん

■合格大学：筑波大学 人文・文化学群 日本語・日本文化学類

■学校名：筑波大学附属坂戸高校 ■校舎名：東松山校



● 合格を手にしたの感想

素直に嬉しかったです。私は、受験に向けて毎日の授業に励むほか、以下の3つのこともしました。(小論文・面接が試験科目なので)まずは小論文の文章構成、内容の充実、そして論理性に注意しました。2つ目は、面接のために将来は何をしたいのかを具体的に明確にしました。そうすることで、大学で何をしたいのか、何を学ばなくてはならないのかが分かってきます。3つ目は、自治問題への解決策を考えました。取り上げられている問題のメリット、デメリットを挙げ、それらを踏まえたうえで自分なりの答えを持つことが重要でした。

● 後輩へのアドバイス

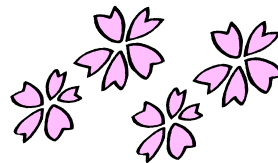
もし推薦入試で大学受験を考えるなら、1,2年のうちにやっておくべきことは、1年のときから成績を上位にキープしておくことです。部活や課題などが理由で普段の授業がおろそかになってしまうと、受験時に志望している大学の評定平均やその推薦基準に満たない可能性が出てきます。評定平均の数値は、短期間では変化しません。

成績を上げる秘訣は…特にありません。毎日の授業の予習・復習をすることが一番の秘訣だと思います。分からないことが出てきたら、それが記載されているページに戻り、もう一度問題を解くことが大事です。俊英館の映像授業では、そういった授業の要点を短い時間で確認することができるので、活用してみてもいいかもしれません。

鞍川 凌也くん

■合格大学：明治大学 政治経済学部 政治学科

■学校名：県立熊谷高校 ■校舎名：寄居中央校



● 合格を手にしたの感想

私は指定校推薦で合格しました。指定校推薦をとるために高校3年間の定期テストを後悔しないようにいつも全力で受けていました。

高3に上がる頃は、志望校の推薦を取るための評定(通知表の成績)が少し足りなかったのですが、3年の1学期の中間と期末を一生懸命やったことをよく思い出します。自分でもかなり張り詰めて勉強したのが強く印象に残っています。合格通知をもらったときは、すごくほっとした気持ちが大きかったです。

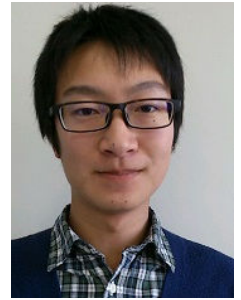
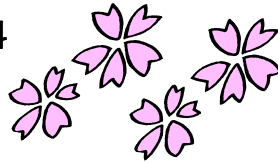
● 後輩へのアドバイス

推薦をとるためには評定が大事ですが、定期テストが近くなると「今回はやらなくていいや」と思ってしまうことが誰しもあると思います。私も何回も思ったことがありました。でも先のことを考えると今怠けてしまっているのだろうかと思ったり葛藤しました。あの時妥協しなかったから今の自分があると思います。ぜひ皆さんも先のことを考えて行動してみてください。

橋本 聖弥くん

■合格大学：早稲田大学 創造理工学部 総合機械工学科

■学校名：県立松山高校 ■校舎名：東松山校



● 合格を手にしたの感想

合格が決まったときは、喜びというよりも安心しました。

私は中3から俊英館に入り、高1の夏には指定校推薦で大学に行く決めていました。一般受験の勉強より学校の成績を上げることを第一に考え、部活をやりながらも3年間いわば「勉強漬けの日々」を過ごす決めました。俊英館のおかげで、高校の定期テストで好成績をとり続けることができました。それは、学校の近くにあったので勉強の効率が上がり、分からない問題を気軽に聞ける塾の雰囲気よかったからです。

● 後輩へのアドバイス

学校の授業は寝ないで頑張りましょう。先生は生徒が理解しやすいように工夫した授業をしてくれています。定期テストは授業で学んだことから出題されるので、授業を真剣に受けることが点数をとる最大の秘訣です（先生によっては授業中にテストに出る問題を教えてくれることもあるので、聞くしかないでしょ!!）。一般受験でも推薦でも、定期テストで学んだことは無駄にはなりません。1, 2年生のうちにコツコツ勉強し、3年生になって焦らないよう頑張ってください。

寺下 博貴くん

■合格大学：順天堂大学 スポーツ健康科学部 スポーツ科学科

■学校名：県立松山高校 ■校舎名：東松山校



● 合格を手にしたの感想

とても入学したかった大学なので、合格が決まったときは本当にうれしかったです。それと同時に、今まで支えてくれた方々への感謝の気持ちが芽生えてきました。

私は本当に沢山の方々の支えや応援があって、合格までたどりつくことができました。入学後もこの感謝の気持ちを忘れず、勉学に励みたいと思います。

● 将来の夢や目標は？

将来の夢は、高校の体育教諭になり、ソフトテニス部顧問として全国優勝することです。私は支えてくれた沢山の方々のおかげでインターハイに出場することができました。インターハイで得た数々の感動を、ソフトテニスが好きなお子様や、後輩たちにも味わってもらいたいと思ったのが、この夢を抱くようになったきっかけです。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

順天堂大学は「教職の順大」として教員を志す学生のためのカリキュラムがとても充実しています。また、少人数制や医学部連携などにより、きめ細やかなサポートを受けることができるため、自分を高めることができました。

● 俊英館に入塾して良かったところは？

小論文の指導では先生方が丁寧に指導してくださり、初めは合格するレベルには程遠かった私の小論文ですが、添削をくり返していただくうちに、最終的には合格レベルまで引き上げることができました。自分一人では絶対に合格レベルまで到達することはできなかつたと思います。また、夜遅くまで集中できる環境が整い、勉強や進路のことで何度質問しても嫌な顔ひとつせず、優しく丁寧に教えてくださる先生がいたことも大きかったです。

1 センター試験後継テスト 「年複数回実施」見送りへ

現行のセンター試験に替えて、2020(H32)年度から導入予定の「学力評価テスト」について、文部科学省が「年複数回実施」を当面見送る方向で検討していることが関係者への取材で分かった。高校の授業日程への影響や試験会場となる大学側への負担が大きいためとしている。

評価テストでは、現在のような一発勝負からの脱却を図り、年複数回の試験実施が検討されていた。ただ、マークシート式以外に、思考力や判断力をみる目的で新たに取り入れる記述式問題は採点に時間がかかる。

文科省は記述式の採点期間を問題数などによって10～40日程度と試算。記述式は国語と数学で先行実施するが、マークシート式をセンター試験と同様に1月中旬とした場合、記述式は前年12月ごろに行うことが想定され、複数回実施となると、さらに同年の夏や秋に日程を確保する必要があるという。かねて複数回実施は困難との声が出ていた高校や大学側からは、「負担を考えると妥当な判断だ」「早期に方向性を確定させてほしい」などの声が挙がっている。

2 一橋大学 推薦入試を全学部拡大

一橋大学は、2018(H30)年度入試から全学部で推薦入試を導入すると発表した。現在、商学部のみで実施している推薦入試を全学部拡大。これにともない、法学部と社会学部の後期日程試験を廃止する。後期日程を実施するのは、経済学部のみとなる。

推薦入試では、グローバル社会において独自性をもって活躍できる人材の育成を促進するため、一定の基礎学力を備えつつ、特定領域で高度な知的訓練を積み重ね、その才能を発揮してきた多様な背景をもつ学生を、多面的総合的に評価するという。

推薦入試の定員は、商学部と経済学部が15人、法学部と社会学部が10人の計50人。いずれも大学入試センター試験の受験が必須で、外部の英語試験のスコアや数学オリンピックの実績など、出願要件に1つ以上該当する人が対象となる。

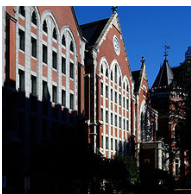


3 慶應大学 全学部生対象の英語による授業「GIC」を開始

慶應大学は、2016年4月より全学部生を対象に英語、またはそのほかの外国語による授業を一定単位取得した学生に修了証を与えるプログラム「GIC(Global Interdisciplinary Courses)」を開始すると発表した。

慶應大学は、文部科学省が採択するスーパーグローバル大学創生支援事業のタイプA(トップ型)に採択されており、事業の一環として2014年11月にGICセンターを設立。国際的かつ学際的な人材の育成に努めている。今回開始するGICは、おもに英語によるキャリア形成を目指す学生に効果的な学習機会を提供するプログラムとなる。

GIC科目には、コア科目(基礎的な科目)とリサーチ科目(専門的な科目)を設け、2016年度は両者合わせて約300の授業を開講予定。うち約80科目はGICセンター独自の施設科目となる。卒業時までコア科目とリサーチ科目の取得単位が合計40単位以上となった学生に修了証が授与される。コア科目はおもに日吉キャンパスと湘南藤沢キャンパス(SFC)で開講する。リサーチ科目は各学部の専門課程や国際センターで開講し、全学部生が受講可能となる。一部授業については、日吉キャンパスとSFCを遠隔装置でつなぎ物理的な移動なしに履修を可能にするほか、将来的には映像授業化しインターネットを通じて配信するアーカイブ構想も想定されている。



条件の緩やかな第二種は「広き門」!?

日本学生支援機構の奨学金については、応募条件を全てクリアしていても、必ずしも利用できるわけではない。特に第一種は、申込者の個々の経済状況などをみて、家計が苦しいであろうと判断された人から順番に採用を決めているので、申込者が多いと、同機構があらかじめ定めた予算内に収まりきらず、不採用となる人も出ているのが現状だ。しかし、第二種の方は、予算枠が第一種より多く設定されていることもあり、条件をクリアしていれば、ほぼ全員が採用されている。

利用に当たって意識すべきポイントは?

申し込みにあたり、必ず意識しておかなければならないことがある。この奨学金を利用する場合、同機構と契約するのは、利用者本人、すなわちみなさん自身であることだ。これが、国の教育ローンをはじめとする各種教育ローンだと、契約者はみなさんの保護者となる。

ただし、契約を結ぶにあたっては、将来、契約者であるみなさん自身が、万が一、返還できない場合を想定して、連帯保証人や保証人を立てることを条件としている。将来、もしみなさんが返還できなくなったら、まずは連帯保証人(通常、みなさんの両親のどちらか)が返還の義務を負う。そして、みなさんや連帯保証人の両方が返還できなければ、今度は保証人(兄弟姉妹やおじ・おばなど、父母以外の4親等以内の親族)に返還の義務が生じる。

しかし、連帯保証人となるべき両親がいなかったり、保証人を頼める親族がいなかったりすることもありうる。その場合は、連帯保証人・保証人を立てる代わりに、保証機関の保証が受けられる「機関保証制度」を利用することになる。

借りすぎに注意! 返還期間はけっこう長い!

第一種、第二種ともに、月額の手当額には、さまざまなバリエーションがある。第二種の方が貸与額に幅があり、最低で月額3万円、最高で月額16万円(私立大の医・歯学部への進学者)もの貸与を受けることができる。平均の利用月額(大学生、短大生、専門学校生、大学院生を含む全利用者の平均額(2010年調べ)は、第一種が5.9万円、第二種が7.3万円となっている。

ここで問題となるのが、いくらぐらい貸与を受ければよいかということだろう。当然ながら、それは個々の事情によって異なる。まずは、自分が、志望大学へ進んだ場合、収入と支出がどの程度になるか、おおまかでよいから試算してみよう。そして収入の足りない部分を奨学金でまかなうと考えよう。

その際の注意点は、とにかく借りすぎないことだ。貸与型の奨学金を利用するとは、将来的に、多額の借金を背負うことに他ならないことを肝に銘じておこう。

大学を卒業したら、その秋から長い年月をかけて、みなさん自身が返していかなければならない。毎月きちんと返せばいいが、万が一のこともありうる。それを考えると、なるべくなら最低限必要な額だけを借りるようにしたい。

大学に進学する前に申し込む場合の資格や条件(2015年春に大学に入学した人の場合)

奨学金の種類	学力の基準	年収・所得の上限額 (4人世帯の目安)	
		給与所得世帯	給与所得世帯 以外の世帯
第一種(利息なし)	高校などで1年次から申込時の全体の評定平均値が3.5以上の者	781万円	349万円
第二種(利息あり)	①高校などでの学業成績が平均水準以上と認められる者	1,124万円	692万円
	②特定の分野で特に優れた資質・能力があると認められる者		
	③進学した学校における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者		
第一種と第二種の併用	第一種と同じ	720万円	306万円